

事例 4 物語から想像したことを基に、自分の思いを表現することをねらった事例

- 学年 第4学年
- 主な領域 工作に表す活動
- 事例のポイント

- ①活動の原動力となる「お気に入りの本」をいつでも読み返し、お話のたのしさや場面の雰囲気、感じ取ったことを思い出せるよう場を設定する。
- ②どの角度から見ても思い通りの立体表現となるよう、登場人物のつくりや配置等を意識することができるようにする。
- ③ICT端末を活用して作品を複数の角度から撮影することで、形の感じ、色の感じ、それらの組み合わせによる感じなどを捉えられるようにする。

1 題材名「本から飛び出す物語」

【第4学年】A表現(1)イ、(2)イ、B鑑賞(1)ア、〔共通事項〕(1)ア、イ 工作に表す活動

2 題材について

- (1) 児童の実態 (略)
- (2) 本題材を指導するに当たって (略)

3 目標及び評価規準（※〔共通事項〕ア、イはア____、イ_____で示す。）

(1) 題材の目標

- ・お気に入りの場面を、紙粘土で立体的に表すときの感覚や行為を通して、形や色、材料やその組み合わせによる感じなどが分かる。
- ・水彩絵の具、接着剤などを適切に扱うとともに、紙粘土についての経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したい場面に合わせて、表し方を工夫する。 〈知識及び技能〉
- ・お話から思い浮かべたお気に入りの場面の様子や登場人物の気持ちなど、想像したことから表したいことを見付け、形や色、材料などを生かしながらどのように表すかについて考える。
- ・自分たちの作品の造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げる。
- ・形や色などの組み合わせによる感じなどを基に、自分のイメージをもつ。 〈思考力、判断力、表現力等〉
- ・進んで紙粘土などを用いて立体に表したり自分たちの作品を鑑賞したりする活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養う。 〈学びに向かう力、人間性等〉

(2) 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>知 <u>お気に入りの場面を、紙粘土で立体的に表すときの感覚や行為を通して、形や色、材料やその組み合わせによる感じなどが分かっている。</u></p> <p>技 <u>水彩絵の具、接着剤などを適切に扱うとともに、紙粘土についての経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したい場面に合わせて、表し方を工夫している。</u></p>	<p>発 <u>形や色などの組み合わせによる感じなどを基に、自分のイメージをもちながら、お話から思い浮かべたお気に入りの場面の様子や登場人物の気持ちなど、想像したことから表したいことを見付け、形や色、材料などを生かしながら、どのように表すかについて考えている。</u></p> <p>鑑 <u>形や色などの組み合わせによる感じなどを基に、自分のイメージをもちながら、自分たちの作品の造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている。</u></p>	<p>態 <u>つくりだす喜びを味わい、進んで紙粘土などを用いて立体に表したり自分たちの作品を鑑賞したりする学習活動に取り組もうとしている。</u></p>

※それぞれの評価規準は「内容のまとめりごとの評価規準(例)」を、そのまま使用したり、具体的な学習活動を踏まえ言葉を省略や変更したりするなどしている。(下線部は変更箇所)

4 指導と評価の計画（全6時間扱い）

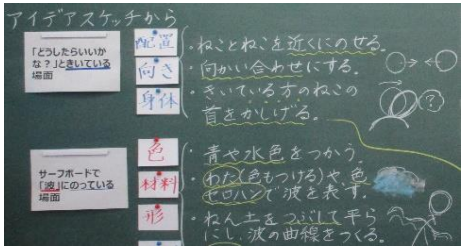



○：指導に生かす評価、◎：全員の学習状況を記録に残す評価

時間	学習のねらい・学習活動	評価の観点、評価方法等					備考	
		知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
		知	技	発	鑑			態
1	<ul style="list-style-type: none"> お話の中のつくりたい場面を選んで、イメージをもつ。 お話から自分が想像したことを、アイデアスケッチに表す。 つくりたい場面の様子に合わせて、背景となる土台や、紙粘土で登場人物やものなどをつくる。 			◎ 観察対話表現			<p>1・2時間目「思考・判断・表現（発想や構想）」は、お話を基に自分のイメージをもつことができているかという視点で評価していく。</p> <p>※「土台」と、紙粘土による「登場人物やもの」をつくる活動の順番は児童それぞれの作品による。</p> <p>※アイデアスケッチで児童が表そうとしていることを確認しながら活動を観察することで、適切な指導に生かす。</p>	
2								
3	<ul style="list-style-type: none"> 土台に登場人物やものを乗せて、さらに自分の想像を広げ、表したいことに合った表し方を考える。 形や色、材料を組み合わせて、表したいことに合わせて工夫して表す。 	○	◎ 観察対話表現					<p>3時間目「知識・技能（技能）」は、用具や材料を適切に扱うことができているかという視点で評価していく。</p> <p>※特に、紙粘土については既習内容を生かすように指導する。</p>
4			○	◎ 観察対話表現				<p>4時間目「思考・判断・表現（発想や構想）」は、形や色、材料などを生かしながらどのように表すかについて考えているかという視点で評価していく。</p> <p>※特に、児童との対話が重要な場面である。途中経過を撮影して記録に残すことで、それぞれの指導に生かす。</p>
5		◎ 観察対話表現	◎ 観察対話表現					<p>5時間目「知識・技能」は、表したい場面に合わせて、表し方を工夫しているかという視点で評価していく。</p>
6	<ul style="list-style-type: none"> 作品を紹介し合い、よさや面白さを感じ取りながら自分の見方や感じ方を広げる。 			◎ 観察対話作品記述		◎ 観察対話作品記述		<p>6時間目「思考・判断・表現（鑑賞）」は、という視点で評価していく。</p> <p>「主体的に学習に取り組む態度」は、活動全体を通して把握し、最後に記録に残す。</p>

5 本時の学習（本時 4/6時）



- 目標
 - お話から思い浮かべたお気に入りの場面の様子や登場人物の気持ちなど、想像したことから表したいことを見付け、形や色、材料などを生かしながら、どのように表すかについて考える。
- 準備
 - 教師：段ボール、紙粘土、カッターマット
 - 児童：絵の具、身近な材料、接着剤、はさみ、ICT端末

(3) 展開

過 程 時 間	学習活動 予想される児童の 具体的な姿（「 」）	指導の工夫 （〔共通事項〕に係る内容 ア_____、イ_____）	評価と手立て 【観点】：評価規準（評価方法） ◎：十分満足できる状況 ◆：日評価に達しない児童への手立て
導 入 5 分	<p>提案 段ボールの舞台に登場人物を乗せ、表したいことに合った表し方を考えよう。</p> <p>1 教師が選んだ児童の作品を基に表し方について全体で話し合う。「会話の場面はどんな配置をしたらいいかな。」「勢いのある波はどんな材料で表せるかな。」</p>	<p>○事前に、登場人物の気持ちや表したい場面をよく考えている作品を教師が選び、それを基に話し合う。</p> <p>○効果的な意見が出た場合には、キーワードで残し、本時の活動のヒントとなるようにする。</p> 	<p>編 P.111 指導計画の作成の留意事項(3)</p>
展 開 30 分	<p>2 キーワードをヒントに、どのようにお話から想像したことを表したらよいかについて考える。</p> <p>3 実際に、登場人物やもののいろいろな置き方を試したり、周りの様子を付け足したりする。「主人公が飛び出してきた感じを出すために、針金も使って、空中に浮かせてみよう。」「わくわくした気持ちの場面だから、背景の色も、もっと明るくしよう。」</p>	<p>○様々な表し方を試してみるよう助言する。</p>  <p>「見る台つくる」過程をくり返しながら表し方を模索している場面</p> <p>○向きや重なりを考えたり、空中に浮かせたりするなどの工夫により、登場人物やものが生き生きとしてくることに気付かせる。</p> <p>事例ポイント② ※6 補足(3)</p>  <p>針金を通して土を浮かせようとしている場面</p> <p>○「ブックコーナー」を設置し、自由に行き来できるようにする。</p>  <p>事例ポイント①</p> <p>自分が表したいと思ったことを確かめながら進めている場面</p>	<p>【思・判・表発】お話から思い浮かべたお気に入りの場面の様子や登場人物の気持ちなど、想像したことから表したいことを見付け、形や色、材料などを生かしながら、どのように表すかについて考えている。 (行動観察・対話・表現)</p> <p>◎表したいことに合わせて、形や色、紙粘土や段ボールなどを、空間の中でどのように使い、組み合わせるかについて独創的に考えている。</p> <p>◆いろいろな角度から作品を見てみることを提案したり、材料の特徴に目が向くように言葉がけをしたりする。</p> <p>【知・技】水彩絵の具、接着剤などを適切に扱うとともに、紙粘土についての経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したい場面に合わせて、表し方を工夫している。</p>

編 P.111 指導計画作成の留意事項(1)

事例ポイント①

	<p>4 ICT端末で製作途中の作品を様々な角度から撮影する。 「ここから見ると、前から見たときと違う部分が見えて、面白いな。」 「横から見ると、形が平べったいな。」</p> <p>5 さらに、自分の表したいことにふさわしい表し方を考えながらつくり変えていく。 「羽ばたいているように、横に広がるように羽根を付け足してみよう。」 「草や花の大きさを変えて広い野原にしよう。」</p> <p style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; display: inline-block;">編 P. 111 指導計画の作成の留意事項(2)</p>	<p>○製作途中の作品をじっくりとみることで、よりよい表現への手がかりをつかむことができるようにする。</p>  <p>互いの表現を共有している場面</p> <p>○<u>形や色などの組み合わせによる感じなどを基に、自分のイメージをもつことができるようにする。</u>そのため、作品の形や色、構成の美しさを基に、想像したことについて質問する。</p> <p>○<u>お気に入りの場面を、紙粘土で立体的に表すときの感覚や行為を通して、形や色、材料やその組み合わせによる感じなどが分かるようにする。</u>そのため、児童との対話や児童同士の対話の中から価値付けをする。</p>	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">事例ポイント③</p> <p>【能】進んで紙粘土などを用いて立体的に表したり自分たちの作品を鑑賞したりする学習活動に取り組もうとしている。 (行動観察・対話・表現)</p> <p style="border: 1px dashed black; border-radius: 50%; padding: 10px;">【指導に生かす評価】 「思考・判断・表現(発想や構想)」と関連付けて、「主体的に取り組む態度」の視点で、進んでどのように表すかについて考えながら活動している様子を観察する、つぶやきを捉える、対話をする、表現を見るなどして児童の学習状況を把握し、指導に生かす。</p>
<p>整理 10分</p>	<p>6 本時の活動を振り返る。 「主人公やものの置き方、色、材料の組み合わせなどから、自分の表したいことに近付けられる。」</p>	<p>○導入時に学級全体で確認した提案を基に撮影した画像を全体で見合い、自他の表現のよさや面白さを共有し、本時の学びを振り返る。</p>	

知 = 「知識・技能」の知識に関する評価規準、**技** = 「知識・技能」の技能に関する評価規準、**発** = 「思考・判断・表現」の発想や構想に関する評価規準、**鑑** = 「思考・判断・表現」の鑑賞に関する評価規準、**能** = 「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準を表す。
※【記録に残す評価】は□、【指導に生かす評価】は○で示している

6 補足

(1) 在籍児童数 36 名

(2) 場の設定

- ・作品を 360 度回転させ、様々な角度から見るができるよう個々のスペースには余裕を持たせる。想像したことに合わせ、自由に材料を選ぶことができる「身近な材料コーナー」を設置する。設置場所は中央とし、自然に互いの表現を見合うことのできる動線をつくる。

(3) 事例ポイント②について

- ・向きや重なりを考えたり、空中に浮かせたりする等の工夫をしている例
児童 A の場合



曖昧であった複数の登場人物の位置関係であったが、実際に配置してみることで、決定した例。前から見たときに人物と人物とが重なっていることに気づき、配置を変更した。



崖にかかる橋を、当初は紙粘土だけで表そうとしていたが、針金を芯として使うことでつりばしを自分の思うカーブの形に表すことができた。

橋の活には、中にはりがねを入れました。糸は、一本一本つりました。わたしは、絵の具で、色をつけました。

(4) 他の指導時間のポイント

- ・アイデアスケッチについて（第1時）



1時間目にお話から自分が想像したことを、アイデアスケッチに表している。児童がもつイメージを理解し、指導に生かすための資料となる。

- ・段ボールの舞台について（第3時）

登場人物の製作だけでなく舞台づくりにおいても、それぞれのもつお話のイメージに沿って形や立て方などから工夫させたい。



実際には、多角形にしたり2段にしたりというように、表現したい場面に合わせて、様々な舞台をつくることが予想される。また、箱の一部を切り抜いたり、他の材料を活用したりすることも考えられる。

- ・完成した作品の展示について（第6時）

完成した作品は、図書室に「本の紹介コーナー」を設けて本と共に展示する方法が考えられる。作品からお話に興味をもつきっかけとなり、国語との教科連携を図ることができる。また、他学年の目に触れることにより、児童の創作意欲を高めることが期待できる。